

保育者養成における音楽指導の一考察（Ⅲ）
—音楽活動指導の成果と保育所実習をとおして—

丸 山 京 子

A Study of Music Instruction in Preschool Education Training
—Part III—

Kyoko Maruyama

Summary

Last Year, the authors investigated music instruction in kindergarten. In this paper, we want to consider the result of musical activities in nursery. Furthermore, we will consider how musical activities might differ in a kindergarten and a nursery. It turns out that music is used for creating an atmosphere, and in kindergarten, musical education is conducted as a part of children's educational instruction.

Received Oct. 31, 2001

Key words : Result of Musical Instruction ; Practical Training; Nursery.

I はじめに

昨春、保育所に入所した児童数は178万8302人であった。一方、幼稚園に入園した園児数は177万3682人であった。このようにはじめて保育所の児童数が幼稚園の園児数を1万4620人上回ったのである¹⁾。保育所への入所資格が0才児からであるのに対して、幼稚園のそれは3才児からという違いがあり、この結果となったと思われる。しかしながら、共働き家庭が増加していることを考えるとこの傾向は今後も続き、その差はますます広がると考えられる。

さて、保育者養成校としては幼稚園実習と並んで保育所実習も行われている。また、学生の就職先をみると幼稚園ばかりではなく、保育所・保育園への就職も多くなっている。本学では学生全員が2年次の夏休み中に保育所実習を行っている。当然のことながら、授業で履修したピアノ演奏が保育所でも行われていると思われる。

そこで、保育所実習後にアンケート調査を行い、保育所ではどのような音楽環境があり、それによってどのような音楽指導をしていかなければならないかを考えてみた。なかでもとくに、保育所において音楽がどのように活用されているのか、また、幼稚園と保育所では音楽の活用方法にどのような違いがあるのかについても考えてみたい。

Ⅱ 調査の方法

- ・調査日時：平成12年7月
- ・アンケート対象学生：保育所実習参加学生120名、回答者数95名
- ・調査方法：「保育実習Ⅰ」受講学生に対して記述式のアンケート用紙を配布し、調査を行った。

Ⅲ 結果・考察

1. 前回調査（幼稚園実習後）の結果

「保育者養成における音楽指導の一考察（Ⅱ）—音楽活動指導の成果をとおして—」（拙論『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要第33集』）では、幼稚園実習終了後のアンケートに基づいた考察を行った。そこでは以下の四点が理解できた。第一に、保育者養成における音楽指導ではピアノの基礎技術力の向上が前提となることである。第二に、表現力が豊かで、より実践的な音楽教育が求められることである。第三に、保育者が多くの音楽に接すれば接するほど、子どもの音楽感性がより豊かになっていくことである。第四に、これからの時代要請にこたえる保育（例えば、乳児保育、延長保育）に対する音楽教育を考えていくことである。

2. 保育所における音楽指導

①音楽指導の位置付け

最初に、表1から保育所における音楽活動の現状について考えてみる。音楽の取り組み方、かかわり方について尋ねたところ、「歌はあまり歌わない」という回答が最も多く19名あった（20.0%）。つぎに数の多い回答は「お昼寝時に音楽を流す」（10名、10.1%）、「季節の歌を歌う」（4名、4.2%）があった。その他に目立つ回答としては「音楽を聞くことが多い」、「歌わずに、音楽を流して行動する」、「踊ったり、手足を動かすときに音楽をかける」、「テープの使用が多い」といった回答もある。

幼稚園では「朝・昼・お帰りのとき歌を歌う」という回答が最も多く25名（26.3%）で

表1 音楽への取り組み方・かかわり方（幼稚園と保育所の相違）

保 育 所		幼 稚 園	
回 答 例	回答者数	回 答 例	回答者数
歌はあまり歌わない	19	朝・昼・お帰りのとき歌を歌う	25
お昼寝時に音楽を流す	10	歌うことに教育的側面がある	2
季節の歌を歌う	4	/	
BGMの使用が多い	3		
体操の時歌う	2		
踊ったりする時音楽を流す	2		

保育者養成における音楽指導の一考察（Ⅲ）

あった。つぎに「歌うことに教育的側面がある」という回答が僅かではあるが2名あった。さらに幼稚園では、積極的に音楽を取り入れている場面を伺うことのできる回答もあった。それは例えば「毎日欠かさず歌う」、「生活習慣の歌は必ず歌う」などである。

保育所では、音楽を積極的に取り入れているというよりも、むしろ保育の流れの中で環境づくりとしての音楽の利用が多く見られるようである。対照的に、幼稚園では教育の一環としての音楽活動という位置付けがなされているようである。

さて、表1の中で歌を歌うことについての学生の受け止め方をまとめたのが表2である。

表2 保育所と幼稚園における音楽活動の相違

保 育 所	幼 稚 園
おかえりの歌を歌う	朝・昼・おかえりの歌を必ず歌う
好きな歌を歌わせている	幼児歌曲を丁寧に指導する
年少から年長まで全員で歌う	声の大きさ、表現の仕方を丁寧に指導する
生活面の歌だけを歌う	歌うという行動に教育的側面を感じる
朝の歌しか歌わない	行動のために歌う指導がある
歌うだけで指導はしない	決まった歌を1ヵ月単位で歌う
歌を指導するという方法はとっていない	先生が弾けば子どもは歌う

まず、歌われている曲目は幼稚園では「朝・昼・おかえりの歌」「決まった歌（を1ヵ月単位で歌う）」がある。保育所では「おかえりの歌」「生活面の歌」「朝の歌」が歌われている。曲目としては共通して同じ歌が歌われている。しかし、その歌い方の指導については幼稚園と保育所とではかなり異なっているようである。幼稚園では歌うときに教育的な視点が含まれていることが伺える。それは「幼児歌曲を丁寧に指導する」、「声の大きさ表現の仕方などを丁寧に指導する」「歌を歌うという行動に教育的側面を感じる」という回答に現れている。これに対して保育所では「好きな歌を歌わせている」、「年少から年長まで全員で歌う」「時間があまったときに歌う」「歌うだけで指導はしない」、「歌を指導するという方法はとっていない」という回答がある。

このように保育所では歌の教育というよりも、子どもの好きな環境の中で自然に歌うことが取り入れられているようである。すなわち、保育所ではそもそも子どもがかかわる音楽活動の環境が幼稚園と比べてすくなく、子どもが最低限音楽にかかわるのは「生活の歌」ということになる。

②音楽活動がかかわる場面

保育所ではどのような保育場面で環境作りとして音楽が活用されているのであろうか。保育所における保育の流れの内容を生活、行事、遊び、教育、その他に分類して、その中で音

楽がどのように活用されているのかを調べた。表3は音楽活動が行われた場面とそのかかわり方についてまとめたものである。

表3-1 保育所における音楽活動〔音楽活動が見られる場面〕

場面	回答数
①生活	9
②行事	6
③遊び	13
④教育	13
⑤その他	6

表3-2 保育所における音楽活動〔音楽活動のかかわり方〕

かかわり方	回答数
①子どもの反応	23
②保育者とのかかわり	9
③子どもの行動と行動の導入	15

音楽活動が見られる場面として最も多いのは「③遊び」および「④教育」の場面である。「③遊び」の内容を見ると（ごっこ遊び）、（自由時間）、（室内遊び）などの場面において音楽活動が見られる。また、音楽活動のかかわり方としては「①子どもの反応」という回答がもっとも多くなっている。その具体的な回答内容を見ると「音楽に合わせる」、「子どもの気持ちを落ち着かせる」、「子どもへのけじめを促す」などという回答が多い。幼稚園での音楽のかかわり方は保育者と子どもとの接点としての重要性がみられたのであるが²⁾、保育所においては音楽活動の役目が若干幼稚園とは異なっているようである。

すなわち、保育所では主にそれぞれの保育活動がスムーズになされるためのBGMとして音楽が利用されている。これは、保育所ではその対象が0歳児から始まっていることもありその年齢の幅が幼稚園と比べると広がっていることから、教育としての音楽活動というより保育活動の環境づくりの一環として音楽が利用されているのがその要因と思われる。

3. 保育所における音楽活動

①練習曲と実習時の演奏曲

保育者養成校の音楽授業担当者として、どのようなピアノ曲を練習させると実習時における音楽活動効果が高まるか、を把握する事は重要な教材研究のひとつである。そのために本学授業で保育所用の課題曲を選曲し、事前に学生が練習するよう意識付けを行った。その結果、表4に見られるように、事前の練習曲と実習で演奏した曲目が異なることとなった。

保育者養成における音楽指導の一考察（Ⅲ）

表4 事前練習曲と実習時に弾いた曲

	指導者が修得させたい曲	事前練習人数 ⁽¹⁾	保育所で弾いた人数 ⁽²⁾
基本的 生活の 歌	おはようの歌	67 (70.5)	12 (17.9)
	おかえりの歌	77 (81.1)	21 (27.3)
	おべんとうの歌	66 (69.5)	9 (13.6)
	はをみがきましょう	40 (42.1)	10 (25.0)
	おかたづけ	50 (52.6)	10 (20.0)
保育所 実習 課題 曲	おててを洗いましょう	31 (32.6)	2 (6.5)
	水あそび	64 (67.4)	11 (17.2)
	シャボン玉	50 (52.6)	2 (4.0)
	とんぼのめがね	62 (65.3)	16 (25.8)
	頭・肩・ひざ・足 (ポン)	29 (30.5)	4 (13.8)

注：(1)のカッコ内の数値は回答総数(95)に対する割合(%)である。

(2)のカッコ内は事前練習人数に対する割合(%)である。

基本的生活の歌については保育所実習（2年次8月実施）以前に始まる幼稚園実習（1年次2月及び2年次5月実施）に向けて1年生から練習を義務付けてきた曲である。したがって、事前に練習をした比率も保育所実習課題曲に比べて高くなっている。

さて、保育所実習課題曲は保育所実習に向けて、練習をしていったほうがよいと思われる曲を選択し、学生に練習させた曲である。これを見ると、「水あそび」(67.4%)「シャボン玉」(52.6%)「とんぼのめがね」(65.3%)を練習した学生は5から7割に達している。この3曲に対して、「おててを洗いましょう」を練習した学生は32.6%、「頭・肩・ひざ・足(ポン)」を練習した学生は30.5%であり、少なくなっている。この数値の差は学生にとって「おててを洗いましょう」「頭・肩・ひざ・足(ポン)」という曲の演奏が難しいというよりも、あまりなじみのない曲(学生自身が知らない曲)ということが要因となっていると思われる。

ところで、この練習曲は保育所において実際に弾かれたのであろうか。基本的生活の歌では「おかえりの歌」の演奏割合が最も高く27.3%である。最も低いのは「おべんとうの歌」で13.6%である。平均すると3人に1人にも満たない学生が基本的生活の歌を演奏したに過ぎない。保育所実習課題曲では最も比率が高い「とんぼのめがね」でも約4人に1人(25.8%)が演奏したに過ぎない。残りの曲では平均して2割以下かあるいは2人(4%)という曲目もあり、実際に演奏した学生は少ない。繰り返しになるが、基本的生活の歌は幼稚園および保育所の両方の実習を念頭に入れて選曲し、実習前に学生に練習をさせた曲である。それにもかかわらず、基本的生活の歌は3割ほどの学生が弾いただけである。保育所実習課題曲は数値がさらに低く4分の1以下の学生がそれぞれの曲を弾いたに過ぎない。

事前に練習した曲を実習で弾く機会がなかったという現状はどのような要因から生じてきたのであろうか。前にも述べたように、保育所ではピアノ演奏に基づいた保育というより

も、体を動かす事などによる「遊び」中心の保育が行われる傾向が強かった。つまり、保育者ではそもそもピアノ等の楽器演奏を行う場面や環境が少ないことを示しているものと思われる。音楽活動という視点からすれば、どちらかといえば「遊び」の中で歌われる「歌」のほうが必要なかもしれない。さらに、保育の対象が乳児も含まれており、楽器演奏による保育活動の輪を広げるのは困難なのかもしれない。

②保育所からの課題曲

保育所実習が開始される前に学生は実習打ち合わせのため、保育所を訪問する。その際、保育所から学生に実習が始まるまでに行う課題が与えられる。音楽活動に関する課題についてまとめたのが表5である。

表5 保育所から与えられた課題

	課題	実数	%
音楽活動	ない	52	54.7
	おはようの歌	11	11.6
	おかえりの歌	11	11.6
その他	手あそび	11	11.6
	紙しばい	14	14.7
	絵本	14	14.7

実習前に保育所から与えられた課題について、音楽活動面では「ない」という回答が半数を超えている。「ある」と回答した学生についても多いのは「おはようの歌」と「おかえりの歌」でそれぞれ11.6%である。その他の活動では「紙しばい」「絵本」という回答が多くそれぞれ14.7%である。

保育の現場からみればピアノを弾くという音楽活動よりも、「手あそび」「紙しばい」「絵本(の読み聞かせ)」による保育活動にウエイトが置かれているように思われる。

「手あそび」「紙しばい」「絵本(の読み聞かせ)」による保育は若干歌を歌うことがあるかもしれないが、音楽活動というよりもどちらかといえば話をしながらの保育活動と思われる。幼稚園ではピアノに合わせて子どもが歌うという活動が数多く見られた。しかし、保育所では「手あそび」等を通じて保育するといった流れがあり、教育としての音楽活動は少ないように思われる。

IV おわりに

音楽活動に限って見た場合、今回の保育所実習後の調査では、幼稚園実習との違いが明確

に現れた。

第一に、保育所ではピアノ演奏よりも「歌を歌う」活動が必要とされていた。現在の保育所では歌を歌うことが保育の一手段となっている。幼稚園では、教育という視点からの音楽活動であったが、保育所では養育という視点からの音楽活動がより重要視されているものと思われる。

第二に、学生はかなりの曲を事前に練習していったのであるが、保育所における保育の流れの中では思ったほどに演奏する機会が少なかったことである。これは、保育所には未満児保育もありピアノ演奏を保育の一手段に位置付けるといっても、「遊び」を取り入れた保育活動部分が幼稚園より多いからと考えられる。けれどもそれは、保育所においてピアノ演奏が不必要であることを意味してはいない。アンケート回答学生は実習時に未満児保育を担当するケースが多く、現状の未満児保育ではピアノ演奏の機会が少ないという要因があると思われる。また、保育所では幼稚園児と同年齢の年長児保育も行われている。異年齢児の交流というような保育が行われているところもある。さらに、近年、乳幼児期から音楽教育を導入するメリットも唱えられている。先に述べたように保育所においては未満児保育も行われており、限られた保育時間のなかでは今まで以上に「生きた音楽」に触れる機会が求められると思われる。

第三に、ピアノ演奏が少ないといっても日常の生活の場面に限ってみると、「おはようの歌」「おかえりの歌」は比較的演奏されている機会が多い。したがって、子どもが一日の保育を受ける中で最低限音楽にかかわっているのは上記の「生活の歌」ではないだろうか。今後、この生活の歌に含まれる曲の表現力豊かな演奏方法等についての指導の充実が求められていると思われる。

最後に、保育所における音楽はBGMとしての利用が多く見られた。そこで学生には幅広い音楽観に基づいて多様な保育環境に合わせた曲をより多く知り、さらに選曲・活用できる知識が求められるのではないだろうか。ここから、子どもの心と保育者の心のふれあいがより一層深まる一歩が始まるとと思われる。

アンケート調査にあたり本学幼児教育学科助教授仲野悦子先生にご協力いただきました。ここに記して感謝いたします。

注

- 1) 『日本経済新聞』平成13年1月29日付、夕刊。
- 2) 拙稿「保育者養成における音楽指導の一考察（Ⅱ）」『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要第33集』2001年3月、81から82ページ参照。